

第1回 人権教育研究部研修会

令和4年6月1日(水)

浜北文化センター(小ホール)

1 顧問校長挨拶 浜松中部学園 鈴木 伯 校長

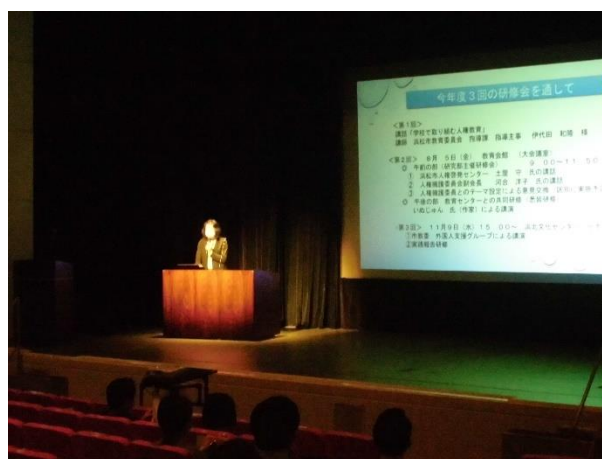
内外の情勢ではロシアによるウクライナへの侵攻の状況、コロナ関連のニュースが常にトップニュースに上がっている。また、浜松市ではいじめの対応に関する報道や教職員の不祥事についても取り上げられている。耳の痛い内容であるが、目を背けるわけにはいかない。改めて人権に関して考えさせられることの多い状況が続いている。

義務教育期間の子供たちへの教育に携わる我々には、「子どもたちの未来を保障する」ことが強く求められている。子供たちが「未来に不安を抱く言動」や「子供たちの未来を妨げるような言動」の根絶を図らなくてはならない。子供たちの人権保障を最優先に考えた教育活動が求められている。子供たちへの人権教育を進めていく上で、我々自身の人権感覚を高めていくことは欠かせない。各学校の人権教育の推進役として、人権意識を広めていく一方、人権感覚を磨くことも大切にしていきたい。

2 講話「本年度の人権教育」 浜松市立北浜小学校 佐々木 麻美 教諭

令和4年度の人権教育テーマは「人権意識の広がり」と参加体験型人権学習の推進」である。人権教育とはどのようなことをすればよいか。悩まれる方が多いのではないだろうか。「思いやり」「やさしさ」など、何となくキーワードは思い浮かぶが、どう指導すればよいか・・・一緒に考えていきたいと思う。人権とは何かを色々調べると、「人権とは私

たちが幸せになるための権利で、人種や民族、性別を超えて万人に共通した一人一人に備わった権利」という説明がある。「人権とは空気のようなもの」ともよく言われている。普段は意識しないけど、ないと苦しいものである。なくなったときに感じるものである。だから一人一人が人権意識を持つことを大切にしてほしい。では、学校の中でどうすればよいか。学校教育における人権教育は「うちわ」のようなものであると考えている。



骨組みは国語や算数、学級活動など学校教育の土台である。学校目標に向かっていくための軸であるが骨組みだけでは意味がなく、あおいでも風は起こらない。すきまを埋めるために必要なものが人権意識である。紙を隙間にはると風が吹く。この風があらゆる場面で必要になってくる。皆さんには風を校内外で吹かせてほしい。人権意識を広げるための具体的な取り組みとして研修の資料、パンフレット、新聞記事、絵本などの回覧、掲示等を活用してみんなの目に留まるようにするなどがある。また、知らないうちに人権教育をしている先生もいる。ふわふわ言葉や誕生日列車などである。

今年度の研修テーマにもある参加体験型人権学習とは、学習者が実際に活動に参加したり話し合いに参加したりすることなどである。ぜひ子供たちには道徳、学活などの時間を通して、先生方には研修を通して、人権教育を広げてほしい。各校で実践を行ったことを、第3回の研修会で共有したい。参加型を行ったり、掲示を工夫したりすることで子供たちがどう変容したか、募金活動やあいさつ運動などの児童会や生徒会の活動でもよい。報告書の形式をミライムで送付するので提出をお願いしたい。人権教育が空気のように浸透してほしいと願っている。

3 講話「学校で取り組む人権教育」

浜松市教育委員会 指導課 指導主事 伊代田 和隆 様

(1) 人権に関する話題

ロシアのウクライナ侵攻、いじめ問題、性の多様性、拉致問題、自死など話題にした人はどのくらいいますか。ロシアの進行は他人事ではない。新型コロナによる人権侵害は230件に上っている。自死に関してニュースになると後を追う人が出てくるかもしれない。決してテレビ



の向こう側の話ではない。ぜひ子供たちにどう投げかけるか考え、投げかけてほしい。そして投げかけるだけでなく具体的な言動を求めてほしい。人としてどう生きるかが学校教育の根本である。

(2) 学校における人権教育（県）

人権教育・啓発に関する基本計画の第3章には、人権尊重の理念とは、「自分の人権のみならず、他人の人権についても正しく理解し、その権利の行使に伴う責任を

自覚して、人権を相互に尊重し合うこと、すなわち、人権共存の考え方として理解すべきである。」と書かれている。県のスローガンは「分かるから変わるべき、気づきから行動へ」である。目標を達成するために何をすればよいただろうか。1つ目は理解を深めること、2つ目は感覚を養うことである。一步進んだ人権教育を進めるために静岡県教育委員会が作成している「人権教育の手引き」を参照していただき、学習者が主体的に進めるものとしてほしい。

導入で使えるアイスブレイクの紹介と実践 「物語を作ろう」

1人目「ある山の中に池がありました。」

2人目「その池は・・・」(話を続ける)

3分間で物語を作る

展開で使えるアクティビティの紹介と実践 「短所を長所に見よう」

あきっぽい→いろいろなことに興味がある

流されやすい→人に合わせられる

静岡県人権教育の手引きを活用すると45分使える。活用してほしい。

まとめ この活動を通して、感じたことや考えたこと

どんな活動に生かすことができるか

ブレイクタイム 「白黒の絵」

絵を見て何が見えるか。最初は見えなかったものでも見方を変えると見えるようになる。見えないと決めつけなくてよく見ることが大切である。仲間外れをなくすために思い込みをなくすことが大切である。良いところを見つけていくとよい。苦手な人がいい人になるかもしれない。

(3) 学校における人権教育(市)

リーフレットを参考にしてほしい。子供の人権、障がいのある人の人権、人権啓発資料、発達障害、AD、ADHD、LDなどいろいろな内容が掲載されている。ディスレクシアとは、文字の読み方や形の認識が苦手な特徴がある。ディスレクシアの子どもにどのような支援をしていくか、考えてほしい。文字を大きくする。穴あけにしてその字だけ見えるようにする。まとまりごとにスラッシュを入れる。フォントや行間の変更など様々なことが考えられる。一人一人を認めることができる雰囲気作りを大切にしてほしい。農福アワードとは農業と福祉の関連の書籍に送られる賞である。その中で今年度、「めねぎのうえんのガ・ガ・ガン！」という浜松の企業が作成した本が選ばれた。鈴木さんと障がい者のやり取りから障がい者が働けないのはだれのせいなのか考えることができる内容にな

っている。そこから子供たちと接するとき何を大切にすべきかを考えることができる。

(4) お礼とお願い

児童生徒向け人権教育に取り組む学校 100パーセント達成することができた。職員向けの人権教育に取り組んでほしい。おすすめは回覧研修である。今回紹介した本の内容を職員に回覧して伝達してほしい。

4 顧問校長より 浜松市立南部中学校 小澤 義則 校長

今回の研修を通して、人権について新たに発見することができた。人権教育は今では当たり前のように言われている。思い返してみると昔は、男子は丸刈りだったり、男女別の名簿が当たり前だったりした。今では高校入試に性別の記入が不要になったり、制服も変わったりしてきている。少しずついろいろな変化がある。そこで我々にできることは、①人権を知識として伝える。②どうして必要なのかを分かりやすく伝える。③人権を大切にすることはどういうことなのかを伝える。ではないだろうか。今回、人権教育の必要性を講話を通して聴くことができた。できることから人権教育に取り組んでほしい。